

# 「全国制覇」固い決意

## 心一つ、危機乗り越え

常総学院  
センバツに挑む

### チーム

「甲子園に出ることが目標ではない。甲子園で『勝つ』ことが目標。悔いなく、残りの期間頑張っていく。」

初めの練習となった1月5日。島田直也監督(53)は選手たち呼びかけた。新チームのスタートは

なく、残りの期間頑張っていく。」新年明け、最初の練習となった1月5日。島田直也監督(53)は選手たち呼びかけた。新チームのスタートは

「このままではいけない」。チームに危機感が漂った。県大会までに主将交代もあった。地区大会途中で主将に就任した若林は「一人一人がキヤプテンシーを持つ。楽しくやっていく」と仲間

第96回選抜高校野球大会(3月18日開幕・甲子園)に3年ぶり11度目の出場を決めた常総学院。その道のりと「全国制覇」を掲げる甲子園への挑戦を追った。

「甲子園に出ることが目標ではない。甲子園で『勝つ』ことが目標。悔いなく、残りの期間頑張っていく。」

盤石な強さが期待された。中、秋の地区大会の初戦は3-2の辛勝。1点を追う九回2死からの適時打でサヨナラ勝ちを収め

た。続く代表決定戦も2-1とロースコア。何とか1次予選で県大会出場を決めた。武田は「みんな硬くなっていた」と当時を振り返った。

「恩返し」。それぞれの思いが込められた。若林主将は筆で「決然」と力強く書いた。「目標は日本一。ぶれずにやっていく」。決意を胸に、センバツへの挑戦が始まった。(関口沙弥加)

思わぬ結果だった。打撃の中心の主砲・武田勇哉(2年)や近藤和真(同)、遊撃手の若林佑真主将(同)、捕手の片岡陸斗(同)ら夏の主力が残

た。続く代表決定戦も2-1とロースコア。何とか1次予選で県大会出場を決めた。武田は「みんな硬くなっていた」と当時を振り返った。

と鹿島学園を投打で圧倒。関東大会も勢いは止まらず、準々決勝で打撃が売りの花咲徳栄(埼玉1位)に10-5と打ち勝ち、4強入り。選抜大会出場を手中に収めた。



年明け最初の練習に臨む常総学院の選手たち  
= 1月5日、土浦市中村西根の同校野球場



野球場には選手たちが今年の抱負をしたための色紙が並ぶ